

第1回 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会 議事録

日時 令和4年7月29日(金)

10:00~11:30

場所 鳥取市役所本庁舎7階 全員協議会室

出席委員 倉持委員長、細江副委員長、石丸委員、若山委員、真嶋委員、中村委員、田中委員、陶山委員、木谷委員、渡世委員、吉村委員、赤山委員、入江委員

1. 開 会

2. 副市長あいさつ

- ・ 鳥取県東部では新型コロナウイルスの感染拡大が続いている。
- ・ コロナ禍によって全国の中心市街地も大きな影響を受けている。
- ・ コロナ禍のほか、人口減少の加速、高齢化や出生率の低下など、様々な要因が絡み合っているが、何としてもこの状況を打破するべく、市としても取り組んでいるところ。委員の皆さんのお知恵を借り、様々な分野の視点で検討を進めていただきたい。

3. 委員紹介

委員会の成立を報告

- ・ 出席者 委員 14名中 13名 欠席者 1名

4. 委員長・副委員長の選出

- ・ 事務局より委員長に倉持委員、副委員長に細江委員の選出を提案、承認

5. 倉持委員長あいさつ

- ・ これまで、中心市街地に関わる仕事に携わってきた。第1期計画から参加している数少ない委員として貢献したい。
- ・ 事務局より会議公開の可否を確認し、「公開」と決定

6. 協 議

1) 中心市街地再生の取り組みの進捗状況

- ・ 事務局より現行計画の概要と進捗状況について説明

2) 中心市街地活性化に関するアンケート結果

- ・ 事務局よりアンケート調査結果の説明

(委員) アンケート調査対象の市民 4,000 人は無作為抽出か。回答者の属性を見ると中心市街地在住者が少ない。中心市街地在住者への配布割合が低かったのか、回答数が少なかったのか、どちらか。

(事務局) 無作為抽出である。居住人口に応じて配布しており、中心市街地在住者への配布数 100 部単位であったと記憶している。詳細は後ほど確認する。

(委員) 中心市街地に出かける目的として「買い物」が最も多いが、中心市街地在住者がどう思っているかをもっと調べても良かったのでは。そのことを把握するためには回答数が少ないと感じた。

- (事務局) このアンケート調査は第1期計画策定時から継続的に行っている。国が認定する計画であるため、国の定めたひな型にある程度沿って調査を設計する必要がある。中心市街地在住者の意見に注目することも重要であるが、交流人口拡大を目指している本市としては、中心市街地以外の住民に来てもらうためにどのようなまちづくりをするかという視点も重要である。そのため、市民全体の意見を反映できるよう調査を設計したものである。
- (委員) 中心市街地以外の住民に中心市街地に来てもらうという考え方も重要だが、現状を鑑みるとそれが最優先でよいものかと感じる。まちなか居住の推進に積極的に取り組むべきと考えるが、その観点に立つと回答者数があまりにも少ない。現在の中心市街地在住者がどのようにどう思っているかを聞くことで、まちなか居住を増やす方法も検討できるのではないか。
- (事務局) このアンケート調査だけで住民意見を集約したとは考えてはいない。この委員会での協議と並行して、中心市街地の5自治会や商店街の皆さまとの意見交換も行う予定としている。それらの結果も計画に反映していく。
- (委員) p.48の3(4)の「今後、整備・充実すべきと思われる施策」について、鳥取城跡周辺地区では「その他」が多い。「その他」として具体的にどのような意見があったのか教えてほしい。
- (事務局) 主な意見では、博物館、美術館、図書館、大型店舗の駐車場、100～200人規模のライブハウスや映画館、ドッグラン、ベンチャー企業のオフィスなどがあつた。

3) 第4期計画の策定、今後の検討スケジュール

- ・ 事務局より計画の方向性等、重点施策及び今後の取組概要(案)、今後の検討スケジュールについて説明
- (委員) 現行計画の目標指標「商業施設年間来店客数(5施設)」を削除した理由は何か。また、第4期計画で補足指標として追加された「中心市街地内での滞留時間」は令和4年秋に予定している調査結果をもとに目標値を設定するということか。
- (事務局) 1点目は、リノベーション事業等により大小様々な事業者を支援していることから、中心市街地の経済活力の向上を図る指標として核商業施設に限定した指標はそぐわないと考えたため。オンラインショッピングの増加等により、リアル店舗への来店客数は今後も大きくは増加しないと考えられる。来店客数の増加が指標として妥当か検討した結果、今回は削除することとした。
- 2点目はご指摘の通りである。
- (委員) 現行計画の「扇町駐車場(仮称)整備事業」は、JRの店舗整備により削除とのことであったが、第4期計画の事業では駅南の駐車場はなくなるとのことである。また、「まちなか観光拠点整備事業」について、現行計画では駐車場のことに触れていたが、第4期計画では文言自体が削除されている。先ほどのアンケート調査においてもJR鳥取駅周辺の駐車場整備に関する声が多かった。JR鳥取駅周辺の駐車場整備に関する事業は第4期計画には盛り込まないのか。
- (事務局) 県議会での質問を受けて、現在、鳥取県が主体となって本市の関係各課と協議中である。駐車場整備に限らず、様々な方策により周辺の観光促進を図りたい。駐車場整備だけではなく、どのような環境が必要かを今後検討する。
- (委員) 先ほどの駐車場の件など、アンケート調査の結果が反映されていないものもある。

もう少し、アンケート結果を踏まえた事業内容になるとよい。

また、「文化観光・交流施設年間利用者数」の対象施設となっている「城下町とっとり交流館高砂屋」は、令和元年か令和2年に計測方法を変更しているはずなので、確認をお願いしたい。

(事務局) 1点目について、中心市街地には民間の時間貸しや有料駐車場が約2,000台分あり、台数としては充足していると認識している。市民の意向としては無料駐車場を望む声が多いものと考えられるが、現況からすると対応は困難である。「有料駐車場と、鳥取市100円循環バス「くる梨」などの公共交通を絡ませて、まちなか移動を円滑にする」といった取組が重要と考えている。

(委員) そういった方向性は理解している。約2,000台分のうち、数10%は月極駐車場であり、利用可能な有料駐車場の台数は2,000台もいかないと認識しているので、実際に利用されている割合は40%程度ではないかと考える。あらためて検討いただきたい。

(委員長) 第4期計画の目標指標について、「歩行者・自転車通行量」をAIカメラで計測するというのは新たな取組である。これまでの人力による計測と比較して、どのような差が出る可能性があるか。差が生じるとすれば、その差は目標値に関係するのか。

(事務局) AIカメラの精度は約98%である。人力と比較してどの程度の差が生じるか見当がつかないが、その差が大きいようであれば調整が必要と考えている。

(委員長) 千人単位で差が生じるとなると結果も変わってくる。慎重に行った方がよい。

(委員) リノベーションやまちなかワーケーションなど、中心市街地に入ってきた若者が様々な活動を始めている。空き家や空き店舗の改修などにより、新たな店舗や働く場も生まれている。まちなか居住の推進に関する事業の一つである「まちなか居住体験施設運営事業」について、これまでの取組を具体的に教えてほしい。

(事務局) 末広温泉町にあるリノベーションされた建物の3階を借り、居住体験施設「Kari 菓 mai」として運営している。コロナ禍により、県外からの積極的な受け入れが困難な状況がしばらく続いたが、最近では、YouTuberと連携したり、日本海テレビの番組「冠ルーヤ」で取材を受けたりして、積極的に情報を発信している。1ヵ月間滞在する人もおり、鳥取市の魅力を知ってもらったり、移住先として検討してもらったりするきっかけとなっている。

(委員) まちなか居住施設の利用者から寄せられた意見は公表されているのか。

(事務局) 令和元年度の利用者は10組で、令和2年度はコロナ禍のため受入停止しPR活動に専念した。令和3年度に1組、令和4年度は現時点で2組の利用があり、今後も予約が入っている状況。利用者を対象としたアンケートを実施しており、結果は公表していないが、今後検討する。

(委員) アンケート調査結果によると、中心市街地の現在の印象について「悪い・やや悪い」と回答した人の理由として、「人通りが少ない・活気がない・雰囲気が悪い」、「空き店舗・シャッターが閉まっている」、「店舗等の魅力がない・行く場所がない」の3項目の合計で全体の約3分の2を占めている。今後のまちづくりにおいては二軸のビジュアルアイデンティティが重要と考えるが、その部分が各商店街振興組合に任されているのが疑問である。ビジュアルアイデンティティの部分が改善されれば、まちの印象は大きく変わる。

もう一点、中心市街地のエリアの名称が具体的に示されていないことが気になる。

魅力的なエリアにはメッセージ性のある名称が付けられているが、本市の中心市街地にはそういったコンセプトが想起されるエリア名がない。中心市街地居住者の意識付けや観光客にもわかりやすいビジュアルアイデンティティ（VI）に関する要素が薄いように感じられる。

(事務局) 現行計画において7つのゾーン（エリア）を示しているが、計画策定時にエリア分けをした後はそのままになっている。ゾーニングの考え方やコンセプトを発信していく努力が必要だと真摯に受け止めたところである。今秋、JR 鳥取駅南口周辺において賑わい創出のための実証実験を予定しており、その結果によっては川北にも拡大し、鳥取市商店街振興組合連合会などと連携して二軸の活性化につなげたい。

(委員長) 二軸にVIを落とし込んだものとは具体的にどのようなイメージか。

(委員) 私の所属している智頭街道商店街振興組合では、季節ごとの飾りつけは数名の組合員で案を考えて実施しているが、まち全体としてそれでよいのか疑問に感じている。まち全体で何をテーマカラーにして、何を推していくのかを考え、飾りや看板などを統一してデザインすると整ったイメージになる。そういったビジュアルのガイドラインが決まっているとよい。

(委員長) 初回でもあるので、まだ発言のない委員から一言ずつ意見をいただきたい。

(委員) 商店街の一体性については、鳥取市商店街振興組合連合会としても非常に頭の痛いところである。一昨日の役員会においても、会員の減少が大きな関心を集めていた。意欲のある若者は多いが、昔から商売をしている住民の気持ちがちんぷん離れてしまっていると感じることが多々ある。連合会として一体となって様々な活動に取り組みたいが、予算的に厳しく、意見もなかなかまとまらない。

国の助成金を活用し1ヵ月間実施した「みんげいみつけ」という事業では、参加者から「こういったイベントがあれば商店街に行く」、「10年ぶりに駅前商店街に来た」、「イベント会場の近くに駐車できるとよい」といった意見が寄せられた。商店街から離れた駐車場に駐車して、そこから商店街まで（自家用車以外の手段で）わざわざ来る市民は少ないと思う。イベント時の駐車場について、警察と協議をしているが、行政からのプッシュもしてもらいたい。

(委員) 交通事業者である当社の本業は、住民の皆さんを生活の場所から賑わいの場所へ輸送することである。しかしながら、賑わいの場所も生活の場も減少傾向にあり、経営的に苦しい状況が続いている。この会議の場を通じ、賑わいのあるまちづくりの一翼を担うことができれば非常にありがたい。そのことが、本業にもつながってくると思う。

(委員) 鳥取駅周辺の賑わいの創出について、皆様と一緒に考えていきたい。鉄道の利用者も大きく減少している。計画策定を通じ、駅周辺や城跡周辺でのイベントが増え、鉄道やバスの利用者数の増加につながるとよい。ぜひ協力していきたい。

(委員) 観光コンベンション協会としてはまちなか観光の推進の一環として、城跡周辺や駅前周辺の賑わい創出を目指し活動している。本業においても、「山陰三ツ星マーケット」を通じて中心市街地の賑わい創出のお手伝いをしている。今年度もまちなかでイベントを毎週開催し、人流を創出することで、活気あるまちづくりのお手伝いをしていきたい。

(委員) 福祉の観点からできる限りのお手伝いをしていきたい。「誰もが安心して暮らせるまちづくり」といった形で、誰もが集うことのできる場所や地域になるよう考えてい

きたい。

(委員) 中心市街地の住民の立場からすると、近年、空き店舗やシャッター通りが目立ち、できるだけ早く解消していくべきと考える。空き店舗を活用した事業はこれまでも行われてきたが、地域住民とのコミュニケーションが少なく、「何かやっているな」ということしかわからなかった。現在、(株) まるにわから空き店舗の調査協力を依頼され、互いの強みを生かしながら町内会も協力し、調査を進めている。空き店舗の活用状況を把握することで、地域住民としてどのような協力や支援ができるか考えていきたい。

(副委員長) 中心市街地の整備に対し、現状や市民の意見を集約しながら検討していかなければならないが、容易なことではないと感じた。勉強しながら、皆様と一緒に中心市街地の活性化について検討していきたい。

7. その他

(事務局) 次回の第2回委員会は8月30日(火)の午前中で調整中。会場は鳥取市役所の会議室を予定。決定次第、お知らせする。
次回の委員会では、今回のご意見を踏まえ加筆修正した計画案をお示しし、あらためて意見をいただきたい。また、各団体の委員には個別に相談させていただくこともあるかと思う。その際にご協力をお願いしたい。

5. 開会

以上